



# 令和元年佐賀豪雨災害 被災地支援活動報告

Vol.1-3

令和元年 8 月 28 日、九州北部で発生した集中豪雨により、佐賀県佐賀市、武雄市、多久市、小城市、大町町等を中心に多くの被害が生じました。西九州大学社会福祉学科の学生、卒業生、教員により編成された被災地支援チーム「OKBASE」では、被災地の復興を推し進めるため、様々な機関・団体と連携し、被災者一人ひとりに寄り添った支援に取り組んでいます。



西九州大学 健康福祉学部 社会福祉学科

被災地支援チーム OKBASE

★本活動は、佐賀未来創造基金「佐賀災害基金」助成プログラムに採択されています。

## I

## 被災地での活動にあたって

～地域資源の一つとして、地域住民に寄り添った支援を～

代表 岡部 由紀夫（社会福祉学科 講師 / 社会福祉士）

令和元年 8 月に佐賀県内で発生した豪雨災害。佐賀県にある生活支援を基盤とする大学の学生や卒業生、教員が、被災者や被災地の支援に関わらなければならないと思い、被災地支援チームを編成し、発災直後から家屋の清掃をはじめ、ニーズ調査、配食支援、地域サロンでの活動支援など、様々な支援活動に取り組んできました。

これからも災害支援・被災地支援に関わる NGO や NPO 団体から本チームの活動を支えていただきながら、連携・協力を図り、また多くの被災者の皆さんとの関わる中で、一緒になって復興に向けた歩みを進めていきたいと考えています。

## II

## 被災地での支援活動

～被災家屋の清掃、戸別訪問によるニーズ調査、マッピングシステムの作成～

副代表 平川 悟（社会福祉学科 3 年）

令和元年佐賀豪雨から半年が経ちました。この半年間で取り組んできた支援活動を報告します。

まず「被災家屋の清掃」です。私自身、災害発生直後から活動を行っていますが、半年が経過した現在も、床下に入って泥出しの活動を行うとは想像もしていませんでした。泥出しとは言っても、発災直後とは異なり、完全に乾いて固まっており、基礎に付着した泥をワイヤーブラシで削り落とす活動を行いました。泥出しを行った後は、土台や根太をブラッシングする活動を行っています。

次に「戸別訪問によるニーズ調査」です。例えば、大町町地域調査では 2 人 1 組のチームとなり、大町町に住む被災者宅を訪れ、被災前後の生活状況等の調査を行いました。大学において、相談支援に関する理論を学び、日頃から地域活動（オレンジカフェ等）でのボランティアを行って



水害で汚れた断熱材を洗浄

いた経験がとても役に立った活動となりました。

最後に「被災情報の共有」です。大学でも情報処理の講義を受講し、また個人的にも IT 系には強いという事もあり、活動の拠点とする民間ボランティアセンター（おもやいボランティアセンター）との協働で、被災家屋の情報を Google マップで一覧表示するシステムを作りました。専用サーバーを立てたりせずとも、Google のクラウドサービスを使うことで、素早く無料で安全に災害支援チームの求めるシステムを構築できました。加えて、特定のプラットフォームに依存しない為に、パソコンやスマートフォンでも扱えるというのも利点となっています。このように社会福祉を学ぶ学生として知識や技術、また個人的な強みと経験を活かし、今後も被災地の復興に貢献できればと思っています。



戸別訪問後のマッピング作業



### Ⅲ

## 被災地での支援活動

### ～おもフェス、サロン活動を通じた被災地や住民へのサポート～

副代表 竹井 奏颯（社会福祉学科2年）

被災地支援の一環として取り組んでいる活動として、ボランティアセンターでのイベント時や地域でのサロンにおいて、主にハンドケアと足湯、脳トレ等を行っています。ここではハンドケアと足湯について報告します。

ハンドケアと足湯を行う目的として、ただ単に癒しの提供だけでなく、被災された方々のニーズを聞き取ることや災害で心の余裕がなくなりバーンアウトしてしまわないよう、ストレスを軽減できるような場の提供などを目的としています。その人が何気なく放ったその一言でなにか支援ができるかもしれない。そのような思いでハンドケア、足湯を行っています。

また、利用してくださった地域の方々から「気持ちよかった!」、「次はいつあるの?」など、次回のおもフェスやサロンに来ることを前向きに検討してくださる声をいただくような機会もあり、「やってよかった」という気持ちになれます。

特に、足湯は今回の活動を通じて関わった団体から教えていただき、今はおもフェスや各地で開催されるサロンでできるようになり、学んだことを実践へと活かしています。このように様々な団体と連携、協力して、被災地や住民さんの支援に取り組んでいます。



地域サロンでの足湯の様子

### Ⅳ

## 災害ボランティアへの支援

### ～活動する災害ボランティア・プロボノの方へのハンドケア～

事務局長 木原 咲子（社会福祉学科3年）

災害発生直後には、災害ボランティアの方への支援までの対応は難しかったですが、支援が長期化するなかで対応するニーズも変わりつつあります。ここでは、災害ボランティアの方へのハンドケアについて報告します。

主におもいボランティアセンターで活動されているボランティアの方々、写真洗浄をされている「あらいぐま佐賀」さんや床下対応のチームのメンバーヘラベンダーやオレンジのアロマオイルを使用しながら疲労によりこっている腕や、冷えて指先まで冷たくなった手を10～15分かけてケアしています。香りによる嗅覚からの刺激とハンドケアにより「心も身体も癒された〜」「ありがとう」という声をかけて頂きとても励みになっています。

これからも、現場で継続して実践できるように学内での体験会を重ねてひとりでも多くのメンバーがハンドケアをできるようにしたいと考えています。



あらいぐま佐賀さんへのハンドケア

被災地支援の活動に様々な団体からご協力いただいています。ありがとうございます。

- ・ハンドケア用アロマオイル：アロマリラクゼーションルーム シャンティ 様（佐賀県）
- ・足湯による支援方法：ADRA Japan 様（東京都）
- ・蜜蝋ハンドクリームの作り方：NPO 法人市民協働ネットワーク長岡の清ちゃん（新潟県）

## 機関・団体との連携

佐賀災害支援プラットフォーム、おもやりボランティアセンター、  
神戸大学学生震災救援隊など、様々な団体と連携・協力

OKBASEのメンバーのほとんどは、被災地での支援活動が初めて。  
今まで、様々な団体からサポートを受け、また連携を図り、学生として被災地でできることを考えながら、活動に取り組んでいます。

今回の活動では、佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）へ登録し、  
佐賀県内での被災地支援の動きを学びながら、また民間災害ボランティアセンター・おもやりボランティアセンター（武雄市）での活動を通して、被災された住民さんへの支援活動を行っています。



神戸大学学生震災救援隊と連携！！

特に、活動の中で関わりを持った「神戸大学学生震災救援隊」と連携し、武雄市等で復興にむけた活動について、今後どのようなことができるか協議を重ねています。

## 活動実績

活動日数：94日 活動者数：212名（延べ）2020年3月末現在  
災害関連会議や研修会への出席、チーム内研修会の実施も

2019年9月・地域：佐賀市、武雄市、小城市 ・日数：20日間 ・人数：延べ44名

・内容：家屋の清掃、ニーズ調査、配食支援、支援物資の受け渡しなど

2019年10月・地域：佐賀市、武雄市、小城市 ・日数：13日間 ・人数：延べ35名

・内容：土砂搬出、戸別訪問、配食支援、サロン活動の支援など

2019年11月・地域：武雄市、大町町 ・日数：10日間 ・人数：延べ35名

・内容：家屋清掃、ニーズ調査、サロン活動・イベントの支援、チーム内研修会など

2019年12月・地域：武雄市、大町町、佐賀市 ・日数：10日間 ・人数：延べ23名

・内容：家屋清掃、サロン活動・イベントの支援、SPF研修会など

2020年1月・地域：武雄市、佐賀市 ・日数：8日間 ・人数：延べ22名

・内容：戸別訪問、家屋清掃、イベントの支援、SPF会議、チーム内研修会など

2020年2月・地域：武雄市、佐賀市 ・日数：13日間 ・人数：延べ27名

・内容：戸別訪問、家屋清掃、イベントの支援、神戸大学学生震災救援隊とオンライン会議など

2020年3月・地域：武雄市、大町町 ・日数：18日間 ・人数：延べ36名

・内容：戸別訪問、家屋清掃、神戸大学学生震災救援隊とオンライン会議など

◆日本ソーシャルワーク教育学校連盟 第49回全国社会福祉教育セミナー（2019年11月）において本活動を報告



地域サロンでのおもやりジャンケン みつろうクリームのワークショップ ADRA JAPANのスタッフさんと

OKBASE（オカベース）

代表：岡部 由紀夫

【事務局】〒842-8585 佐賀県神埼市神埼町尾崎 4490-9 西九州大学 岡部研究室内

TEL：0952-37-9263（岡部研究室） E-mail：okbase@icloud.com

FB：https://www.facebook.com/okbase.249univ/



OKBASE FB